

日韓国交正常化後の文化交流
－映画人の活動を中心に－

成川彩
(韓国在住映画ライター)

1965年の日韓国交正常化後、歴史問題をめぐる両国の葛藤もあり、すぐに文化交流が活発化したわけではなかった。本格的に双方向の交流が始まるのは1998年に韓国で日本の大衆文化が開放されてからだ。国交正常化前後にも日韓合作映画や、韓国映画に日本の俳優が出演するなど、いくつかの試みはあった。

例えばキム・ギドク監督の「大怪獣ヨンガリ」(1967)には日本から特撮の専門家が参加したが、その中には撮影監督の井上堯がいた。朝鮮半島出身の井上堯は映画「空の少年兵」(1941)の監督として日本で高く評価され、日韓国交正常化後は日韓を行き来しながら韓国映画の発展にも寄与した。

一方、女性映画プロデューサーとして活躍していた全玉淑(チョン・オクスク)は、1975年から韓国文学を日本語で紹介する季刊誌『韓国文藝』を発行し、作家の中上健次を韓国へ招いて韓国の作家を紹介するなど、日韓文学交流のきっかけを作った。これまであまり注目されてこなかった井上堯や全玉淑の活動を通し、いかに日韓文化交流が発展してきたのかをたどってみたい。